

SORA

web magazine 2013.apr. vol.12

コモド KOMODO 恐竜の末裔コモドドラゴンの見守る 奇跡の海

Photo & Text Kyu Furumi

MAP
CLICK!

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2012
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.

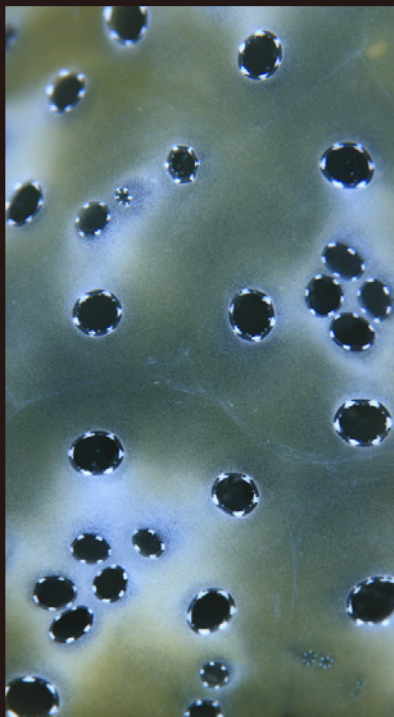


S 驚き Surprise

僕とコモドとの付き合いもだいぶ長くなってきた。はじめて訪れてからもう7年連続で訪れている。なぜにここまでこの海に惹き付けられてしまうのかと考えると、やはり最初に受けたインパクトが強すぎたからだろう。

見たこともないアデカキンコ(ナマコの仲間)やホヤ。それに擬態するように暮らす小さな生き物たち。ひとつひとつが鮮やかでキレイなのに、それらが混じり合い組み合わせあって新たなデザインや美しさを生み出す。なんてキレイな海なのだろうか。

童心にかえり宝探しをしているようなワクワク感。今度はどんな色に出会えるのだろうかというドキドキ感。それらをひとつひとつ大切に紡ぎながら潜るコモドの海。毎回毎回新たな刺激と驚きを与えてくれるこの海は、今の僕にとってとても大切な存在。まだまだコモド通いは続いていくのだろう。





コモド
KOMODO



O 海
cean



tsumi-shima
ツミシマ 島の宝 つかう宝
We
World explorer
Twitter Facebook



コモドの海は大きく北部と南部のふたつのエリアに分けることができる。北部の海は太平洋側からの潮流の影響で、水温、透明度も高くサンゴがぶわーっと広がる熱帯の景観もありつつ、人気ポイント「CASTEL ROCK」のように巨大なロウニンアジが群れるダイナミックなポイントもある。特に早朝の時間帯は彼らの活性が特に高く、クマザサハナムロの群れなどに激しく突進する姿も見られる。薄暗い海中に「ドンッ」という音を響かせながら小魚にアタックを繰り返す光景は凄まじい迫力だ。

南部はインド洋の湧昇流の影響受け、掌を返したように海中景観が異なる。水の色は浅葱色。水温も北部に比べ3〜4℃ほど低い、生き物もインド洋の固有種や前述のアデヤカキンコや風変りなホヤなどがひしめく、ちょっと不思議な空間だ。コモドの海は色んな顔を持っているのだ。



Ocean

オモシロ生物が盛り沢山のコモドの海。
フォト派ダイバーに人気のピクチャードラ
ゴネットやド派手なカラーバリエーション
のルボックスラスなども多いが、個人的に
オススメしたいのがナイトダイブ。砂地の
エリアでは割と多くツノカサゴなども見か
けるし、ホヤ類に小さなウミウシや甲殻類
が乗っていたりと、昼間とは一味違った生
物がウヨウヨ出てくる。地味ながらコモド
カーディナルフィッシュなどの固有種も多
い。生き物好きにはたまらないフィールド
であることは間違いない。



コモド
KOMODO



R ロマン omance

コモド
KOMODO



R ロマン Romance



面白いことにコモドは蒸し暑いイメージのあるインドネシアのなかで、特異なサバンナ気候なのだとか。確かに山々は緑が乏しく荒涼としたものであるし、朝晩はかなり冷えこみやすい。様々な方向から入り込み渦を巻く海流とも相まって、快適なリゾート地でのダイビングとは少々いい難いものがあるが、秘境というのはそういうものだろう。そうここは日本から遠く離れた秘境なのだ。

コモドは黄昏時がじつに美しい。日中の肌を刺すような日差しは山々に隠れ、ヒンヤリと涼しい風が吹き始める頃、コモドの大地は徐々に朱色に染まっていく。昼とよるが入れ替わる瞬間。コモドはもっとも美しく輝いているのかもしれない。

A 行動 ction

コモドの代名詞といえる存在がコモドオオトカゲだろう。コモドドラゴンという愛称で親しまれ恐竜の末裔とも称される世界最大のトカゲだ。最大で全長3m、体重は100kgを超えるという。その唾液のなかには50種以上のバクテリアが含まれており、1度噛んだ獲物を徐々に弱らせて食べるという。長い舌で動物の匂いを感じ、草原に隠れながら獲物に忍び寄る。

一般的にはコモド島とリンチャ島の保護地域にて、コモドドラゴンの観察トレッキングが行われるが、くれぐれも同行するレンジャーの指示通りに行動し、観察や撮影を楽しみたい。



コモド
KOMODO



Information

●国名:インドネシア ●ビザ:30日以内の観光は入国空港の査証カウンターにて取得が必要。 ●パスポート残存期間:6ヶ月以上 ●言葉:インドネシア語 ●時差:マイナス1時間。日本が正午ならバリは午前11時 ●電圧:電圧は220V、周波数は50Hz、プラグは丸ピン2本足のCタイプ ●水:ミネラルウォーターを飲むこと ●行き方:デンパサールまでは成田・羽田から国際線で約8時間

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

